

地対協コーナー

広島県地域保健対策協議会 55年目の飛躍に向けて

広島県地域保健対策協議会 会長 松村 誠



広島県地域保健対策協議会は、昭和44年に「県内における医療および公衆衛生に関する事柄を総合的に調査協議し、県民の健康の保持増進に寄与すること」を目的として広島県、広島大学、広島県医師会の3者で設立され、平成6年に広島市が加わり、現在の構成となりました。構成団体ならびに地対協の活動にご尽力いただいております皆さまにあらためて厚く御礼を申し上げます。

このような「官・学・民」が一体となって保健・医療・福祉に関する事項を総合的に調査・研究する活動は他県にはないもので、全国的に高く評価されております。設立から今年で55年目を迎えますが、これまでもそれぞれの時代の要請に即したテーマの調査・研究を行っております。とりわけ、各疾患・事業における医療体制の構築やACPの普及促進、各種クリニカルパスの作成など医療現場の実情を踏まえて「官・学・民のオール広島」で検討しているからこそ実効性のある活動に繋がっているのではないかと考えます。

令和5年度の地対協活動は、20委員会5WGで検討を行う予定です。昨年度から継続して設置する委員会に加え、今年度から「かかりつけ医機能検討専門委員会」を新設いたします。その時々ニーズにあわせ柔軟に委員会を設置し協議を行うことのできる地盤は、これまで永年にわたり積み重ねてきた活動により培われたものと思います。

また、今年度は第8次広島県保健医療計画の策定年となっており、5疾病・6事業及び在宅医療に関する計画、医師の確保に関する計画等を各委員会において検討することとなっています。国の定める基本方針に沿いつつ、広島県においてより実効性の高い計画となるよう協議し、また、新型コロナウイルス感染症で得た経験も計画に反映させる検討が必要です。

皆さまにおかれましては、引き続き地対協活動へのご理解・ご協力を賜りましょう、よろしくお願い申し上げます。